

## ゆうだち

眩しくきらめく太陽に  
向日葵の鮮やかな黄  
蝉たちのにぎやかな声  
青空に湧き上がる入道雲

今年の夏は夏らしい  
連日の猛暑に 汗をにじませながら  
冷たいもののおいしさを味わい  
吹き抜ける風を感じる涼

夕方 いつの間にか掻き曇り  
響きはじめる雷鳴 縦に裂ける稲妻  
そして 大粒の激しい雨  
ゆうだち 夕立

いつになく夏を満喫した日々も  
夜半の虫の音に秋の気配を感じる季節となった

## 目次

- P1 味あらかると  
P2 子どもの心を耕す読書のすすめ・  
さんやそう  
P3 虹のひろば  
P4~5 子どもびびっとクラブ通信  
P6 活動のヒントに  
P7 まうすりいだより  
P8 新聞まめちしき・夏だより・  
編集後記



## 味あらかると

今年の夏も、七月二十七・二十八日の両日、鹿児島市で「第十回NIE全国大会」が開催された。そして八月二日(火)・三日(水)帯広市で「第四十八回全国新聞教育研究大会・十勝・帯広大会」が行われた。帯広では十年前にも開催しており二度目の参加に恵まれた。北海道は知床が世界自然遺産登録もあり、観光客で賑わっていた。(内容はすでに各紙詳報)

全新聞帯広大会の大会主題「学習意欲を喚起し、生きる力を育てる新聞教育 分析、活用、発信を通して」は次の二点をめざしている。新聞から得た新しい情報が、学習に正当性や妥当性をあたえ、児童生徒の学習意欲を喚起すること。新聞に親しむことから、一般的な情報を自分に意味ある情報とし、学校のみならず様々な場面で活用できること。

また、新聞教育の具体的な学習スタイルである「新聞活用学習・新聞づくり・新聞機能学習」の有機的な関連を踏まえて次のような具体的な提言がなされていた。すなわち、情報を自らの学びにかえること、情報リテラシーを育成し、活字離れを食い止め、さらに新聞独自の役割から「新聞づくりは仲間づくり」であり「人と人とのかわりを大切にすることを培う」教育となることである。

八月二十日・二十一日滝沢村で全日本剣道連盟主催杖道地区講習会を見学する機会があった。基本十二本、制定形十二本、礼に始まり礼に終る、基本を大切に講習会であった。そこに、教育の源流を見る思いがした。

# 子どもの心を耕す読書のすすめ

## 想像力・夢を育む絵本の読み聞かせ

### 「あかいふうせん」

空を飛んでいる風船は、大人にとってもなんとなく心がわくわくします。

子どもがふくらませた赤い風船が、空に舞い上がり次々に変化していく。

文字は書かれていませんが、子どもたちは読み手の語りかけに対して、絵を見ながら風船が次のページで何に変化するか、目を輝かせながら反応してくれます。

りんご・・ちょうちょ・・風車・・かさ と変化していく赤い風船。文字がなくても童心に返って語りかけができる絵本。

想像力・夢を育む絵本として大切にしています。

(7月 沢内村教研にて 実践)



<対象：2歳～小学校低学年>

### 野花菖蒲（ノハナショウブ）



### さんやそう

梅雨。この時期、水を十分得た野山の草木は成長著しく田んぼの緑も深くなる。勢い、お百姓さんたちも畦の草刈に忙しく、早朝からエンジン音がにぎやかで絶えない。見事にきれいになった畦に、一輪の花が刈り残されている。まるで「和服を着た女性が蛇の目傘を差してそっとただずんでいる」そんな光景を連想させる花、それが野花菖蒲だ。

沢内では乙女にダブらせたのが、「シヨドメッコ」という。圃場整備の進んだ今日、写真のよう群生地はほとんど見られない。

説明書によると、花菖蒲は江戸時代から改良が進み、多くの種類がこの時期の菖蒲園をにぎわしている日本人好みの花だという。野花菖蒲は、その原種。一般に赤紫色であるが、青色も珍しくない。黄色のものは黄菖蒲という。菖蒲と書いてアヤマとも読むそうだが、アヤマには網目模様が入っており、野花菖蒲には入っていないことでその違いが分かる。咲き終わった株には、来年の新芽が一つあり、その株を平鉢に植え、根元には山苔を添える。「野花菖蒲は一輪がよい」山野草専門家のアドバイスである。

(文・写真提供 沢内村 大石 信夫 氏)



## 一石二鳥・三鳥・・・となった ワークステーションでの

# パンづくり

かえるパンとても上手にできていました。私が帰ってきたら見せるということで食べないで、そのまま置いてくれました。

私が帰ってくると「見て！カエルパンだよ！！」と「食べていい？」と・・・見せるまで食べないで待っていてくれた気持ちがとてもうれしかったです。ほんとに上手に焼きあがって思わず飾っておきたくなりました。ほんとにマキも楽しかったようです。よかったよかった！！

(マキの母より)

これは、6月13日4～5歳児がワークステーションでつくったパンを家に持ち帰った時の家族の感想です。



パンづくりに夢中に取り組む園児

国産無農薬の南部小麦粉（強力粉）と卵・牛乳・塩・砂糖そして秘密のタネ ルパンの酵母 を混ぜたものを指導員さんより分けていただき、「綿みたい」「もちみたい」などといいながらクルクル丸めて「きょうりゅうパン」「ケーキパン」「カエルパン」「ぎょうざパン」「ボールパン」「ぶたパン」「へびパン」「キャンディーパン」など、一人2ケずつ楽しそうにしかも真剣に粘土こねのようにして作りました。

また、材料には自分たちが散歩で摘んできたヨモギも入れてもらったりしました。

園に帰って、おひるねをしている間に焼きあがったパンは、（1～3歳児のパンも一緒に）届けていただき、午後のおやつとしてみんなでおいしくいただきました。自分たちで作ったパンは、いつにも増して味わい深く感激している様子。何でも家におみやげにしたい子どもたち、もちろんこの日もパンの一部を家へのおみやげとしたのでした。

本園では、ワークステーション製造のパンは、一週間に一度の割合でおやつに届けていただいています。

特に昨年度は、食物制限で卵を入れたパンを食べられない子どももいて、1ケでも2ケでも卵を入れないパンを特別に作っていただいたのです。さらには、子どもの口に合うようにやわらかくしていただいたり、保育所の注文にも応じていただきました。おかげで、今年度は卵を制限する子どももいなくなりました。本当にありがたかったです。

今年度は、ワークステーションでの田植えの交流の時には「田植え踊り」を通所者といっしょに演じたりして知っている場所でもあり、また、かこ さとし著「カラスのパンやさん」の絵本を見たりしてパンを作りたいという気持ちがふくらんだこともあり、思っていた以上に大喜びの活動ができました。

ワークステーションさんの心のこもったいいいな対応に感謝の気持ちでいっぱいでした。

製作意欲・食欲・地域交流にもつながり、まさに一石二鳥・三鳥・・・となりました。

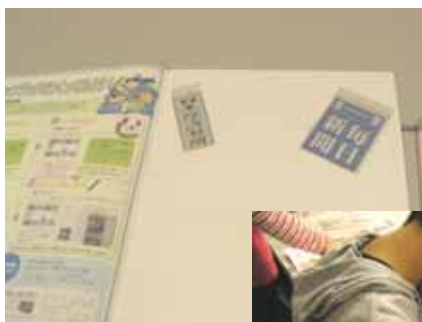
# 子どもびびっとクラブ通信

今年度も、1年生から4年生の25名の元気な子どもたちをむかえ、新たな活動が始まりました。子どもびびっとクラブの活動も4年目に入り、今年度はスクラップに重点をおいた活動をしていきたいと思っています。

第1回 平成17年6月11日開催

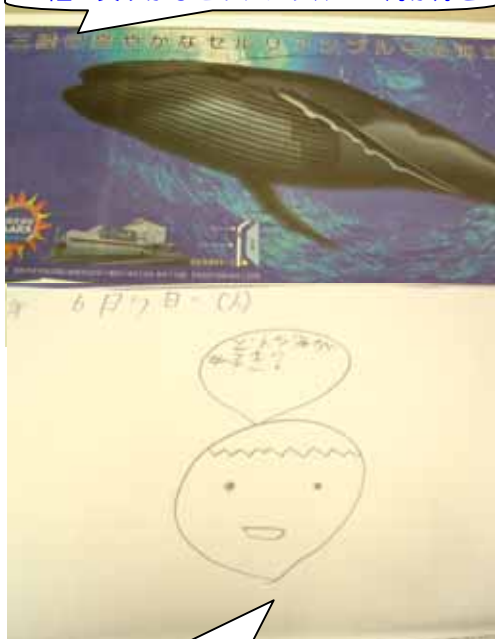
## あ つめてみよう

初めに罫線や記事・写真・イラスト・4コママンガ等々、新聞にはどんな要素があるかをみんなで考え、元気に意見を出し合いました。その後、スクラップの基本となる題字や日付、新聞名を切り取り、思い思いにスクラップノートに貼っていました。



丁寧に題字を切り取っています

三陸の爽やかなセリアンブルーの海が好き



どんな海がすき？

## 写 真とおはなし

新聞からスクラップをした自分の好きな写真とおはなしをします。

野球の選手とおはなしをする子、新聞の言葉を利用する子、それぞれ思い思いにたくさんのおはなしができました。子どもたちのアイデアには思わず脱帽です。





小学生の子どもたちを対象に、遊びを通して新聞に親しみ、表現力や国語力を自然に身につけてもらおうと、ぴびっと研究会が主催している会です。

## これはどこだ

第2回 平成17年7月9日開催

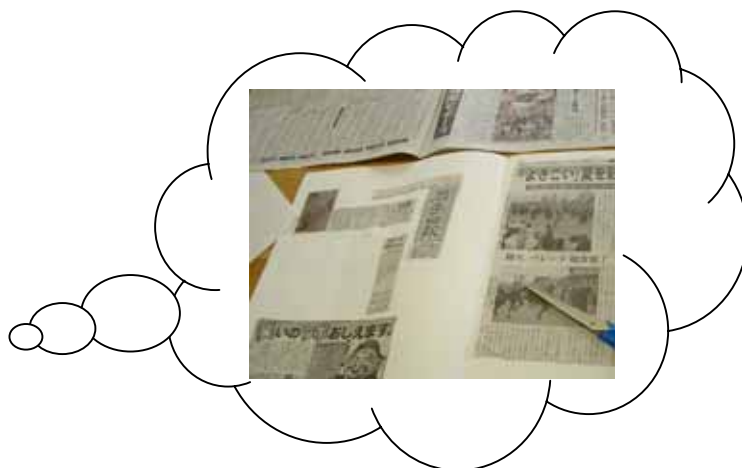
渡されたプリントに載っているイラストや写真・グラフ・記事等と同じものを新聞から探し出す活動です。では見つけたら印をつけ、では少し発展させてスクラップをします。一人で黙々と探す子や友達と協力して探す子など様々です。でも、どの子も楽しそうで一生懸命でした。



一生懸命に探しています(これはどこだ)



手を真っ黒にして！でも楽しそう



## 子どもたちの感想から

『これはどこだ』でぜんぶ見つけられなかったけど、たのしかったです。

2年 男子

いろんな記事をさがしておもしろかったです。またやりたいです。4年 女子

楽しかった。こんどは何をやるのか楽しみだ。  
4年 男子

ちょっとむずかしかった。ちょっとしか見つけられなかった。でもとても楽しかったし、おもしろかったです。できてよかった。3年 女子

子どもたちの素直な感想が、会員の励みになります。また次回も楽しい活動ができますよう、アイデアを出し合い、たぐいまる奮闘中です。



# 活動のヒントに!

~岩手日報社見学~ 2005. 6. 8

私たち「ぴぴっと(PPT)研究会」では、年間5回開催している『子どもぴぴっとクラブ』の参考になればと、かねがね新聞社を見学したいと思っていましたが、今回岩手日報社の本社と制作センターを見学させていただくことができました。



パソコンがずらっと並ぶ机の上



制作センターでは人の姿が本当にわずか。殆どの作業は機械が……びっくりでした。

初めて新聞社というところを見学してまず目に付いたのは、パソコンの多さでした。とにかくパソコンだらけ。パソコンなくしてはできない仕事なのだなあという感想を持ちました。パソコンのおかげで世界とも容易につながり、地球の裏側の記事も瞬時に送られてくるということです。逆にパソコンがまだ登場しなかった時代の新聞づくりの苦勞というものも想像してしまいました。



印刷技術の進歩も



# ひとつの節目

—— 50回目に集って ——

さる5月10日、毎月第1火曜日に集う「新聞を読んで今を語る会（通称まうすりい）」が、5年目にして50回目を迎えた。

この小さな節目となったこの回は、通常の「新聞読者としてのディスカッション」という事に加えて、岩手日日新聞の北村記者を迎え「新聞の作り手としての話」を聴く機会ともなり、また双方の交流の場ともなった。

## 参加した方の感想を少し

- ・新聞記者さんも色々大変なんです。取材の苦労話が聴けてよかったです。
- ・取材も新聞やテレビなどでそれぞれ違うことが分かりました。取材裏話、とても参考になりました。
- ・作り手の話を伺った後は、新聞の見方が少し変わるかもしれません。もう少し大事に新聞を扱おうかな。

また、開催日前後には、同公民館ロビーに「会報びびっと」を創刊号～18号までの展示をさせて頂いた。

その後、6月の51回目には沢内にまで足をのばし、遠足気分を味わいながらの楽しい会となった。



平成 17 年 5 月 11 日（水） 岩手日日

新聞を読んで今を語る会（通称まうすりい）は、「ちょっと知的な井戸端会議」を合言葉に複数の新聞を読み比べ、社会情勢から身近な出来事まで、いろいろな事柄について楽しくディスカッションしながら、おたがい刺激しあって自分を高めていくことを願いスタートした会である。びびっと研究会では、平成13年4月より「まうすりい」を開始。平成17年8月で53回を数える。

毎月第2火曜日、10時から12時まで北上市立黒沢尻北公民館を会場に開催中。  
参加希望者はどなたでも大歓迎！！

## 新聞まめちしき その18

### いつもの時間に新聞が届く

この当たり前のことのために、全国約 44 万 5000 人が今日も元気に走っています。

約 5000 万部の新聞が、毎日、家庭やオフィスに届けられています。その数は全国で発行されている約 5300 万部の 93.9% です。世界に誇る戸別配達制度を支えているのは、おとな、中学生・高校生の新聞少年・少女をはじめ男女合わせて約 44 万 5000 人の人たちです。

いつもの時間に確実に新聞をお届けできるのも、彼らの頑張りがあってこそ。そんな彼らを見かけたら、笑顔と激励の言葉をよろしく願いいたします。

(朝日新聞 2005. 8. 18 「日本新聞協会」の広告より)

## 編集後記

近年、異常気象ばかりが続いて、このままでは異常気象が平年並みにとってかわってしまうのでは・・・？、そうすると異常気象が平年並みで、平年並みが異常気象になってしまうのか・・・？とヘンな心配をしている昨今です。でも今年の夏は平年並みに暑くて、暑いのが大好きな私は満足でした。だんだん収穫の秋がやってきます。今度は太りすぎを心配しなければなりません。あ～いそがし。

ご意見・ご感想をお待ちしております

### びびと (PPT) 研究会

〒024-0012

岩手県北上市常盤台 1-14-12

Tel・Fax 0197-64-0758

E-mail : [agi@titan.ocn.ne.jp](mailto:agi@titan.ocn.ne.jp)

ホームページ : [www.npo.2000.net/ppt/](http://www.npo.2000.net/ppt/)

# 夏だより

## トクちゃんのこと

反日ブームや竹島の騒ぎ

を目にすると思い出すのは、在日韓国人のトクちゃんという友だちのことです。

私が彼女から国籍のことを教えられたとき、それはそれはびっくりしました。見かけは何もかわらないのに、全く違ったバックグラウンドがあったなんて・・・。彼女自身もその事実を知ったのは大分大きくなってからだったようです。

自分の国籍を知ったトクちゃんは、それから一生懸命祖国について知ろうとしました。恐らく必死になって日本人になろうとした両親は家庭の中で韓国語も使わず、トクちゃんは韓国語を知らないまま育った変な韓国人でした。まず、彼女は人に付いて韓国語を習い始めました。それから、同じような在日韓国人の集まりにも顔を出し一生懸命本当の韓国人になろうと

努力しているように見えました。

鳥国根性とよく言うけれど、本当にそれまで自分の生まれた国のことなど考えたこともなかった私も、トクちゃんが自国を愛する姿を見て初めて、日本という国を意識するようになりました。

どこかの国のように偏った愛国心は迷惑ですが、私たち日本人でもっと自分の国に誇りを持つてもいいのじゃないかなって思うよう

になりました。

今トクちゃんは念願の祖国行きを果たし、韓国はどこかで逞しく生きていくと思います。

韓国に旅行した時に何年かぶりであつたトクちゃんは、ペラペラになつた韓国語で通訳したりして誇らしげに韓国を案内してくれました。私も日本人であることを世界に誇れるよう、ぼんやりしてはいられません。

(N)

このコーナーは会員が交代で担当しています